

利用者意識に基づく駅前広場の整備改善項目の分析

名城大学大学院 学生員 ○ 宮地祐麻
 名城大学 正会員 松本幸正
 ジェイアール東海コンサルタンツ 正会員 古井良典

1. はじめに

公共交通を活性化するためには、交通結節点となる鉄道駅が果たす役割は大きい。利用者にとって便利で快適な鉄道駅の実現は、鉄道利用を増やすのみならず、結節するバス利用の促進や駅周辺の開発も誘発し、公共交通の総合的な魅力向上につながると考えられる。

そこで本研究では、鉄道駅の整備状況に対する利用者の意識を捉えるために、駅周辺住民を対象とした意識調査を実施する。その結果に基づき、駅前広場の整備状況に対する意識を捉えるとともに、改善が必要な項目を明確にし、今後の駅前広場整備のあり方を検討するための基礎資料を得る。

2. 調査対象駅の選定

JR 東海の鉄道駅を対象に、1日平均乗車数が500人以上である駅の整備現況を、事前に現地調査した。その結果から、駅勢圏周辺環境、駅前広場整備状況、乗車数のデータを用いてグループ化を行い、分類された4つのグループからそれぞれ数カ所の対象駅を選出した。本研究での対象駅は、図1に示す熱田、笠寺、尾頭橋、穂積、神領、稲沢、亀山、蟹江、高蔵寺、大垣、四日市、枇杷島の12駅である。

3. 意識調査の概要

本研究では、対象駅利用者の鉄道駅施設及び駅前広場整備状況に対する評価を把握するため、意識調査を行った。平成22年3月に、各対象駅500部(封筒1部につきアンケート票2部)、合計6,000部のアンケート票をポスティング形式で配布した。集計時点で、封筒1,299部、アンケート票1,977部を郵送で回収し、封筒の回収率は21.7%となった。

意識調査の内容は、回答者属性、鉄道駅の利用頻度、駅構内施設の評価、駅前広場の評価、駅施設の評価などである。本研究ではこのうち、駅前広場に対する評価結果を用いて分析を行う。



図-1 調査対象駅および路線図

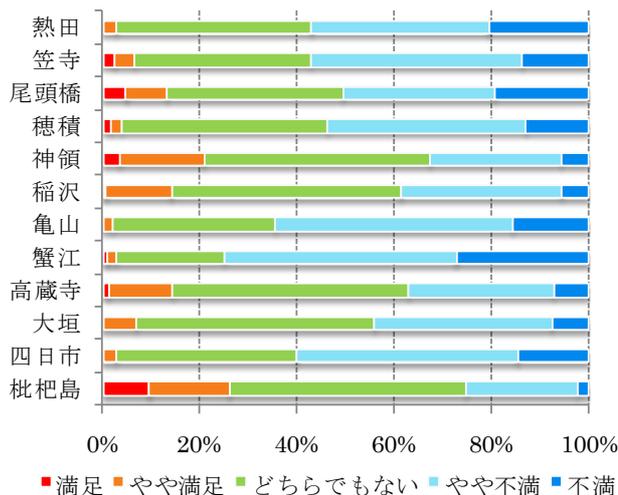


図-2 駅前広場の総合満足度 (対象駅別)

4. 駅前広場の整備状況に関する意識分析

(1) 総合満足度の集計

駅前広場の評価指標として、利用者の総合満足度に着目する。意識調査では、駅前広場に対する総合満足度を5段階で評価してもらった。

図-2に、駅前広場に対する総合満足度の評価結果を示す。この図から、全般的に不満側の回答割合が高くなっていることがわかる。その中でも、蟹江、亀山での不満側の回答割合は6割以上と非常に高くなっており、駅前広場に関して何らかの改善が必要

キーワード：鉄道駅、駅前広場、満足度、意識分析、改善項目

連絡先：〒468-8502 名古屋市天白区塩釜口1-501 名城大学理工学部建設システム工学科 TEL052-832-1151

な状態であるといえる。一方、最近、駅整備が行われた枇杷島、神領においては、満足側の回答割合が2割以上あり、相対的に良い評価を得ていることがわかる。しかしながら、不満側の回答割合も同程度以上にあり、利用者にとっては必ずしも良い駅前広場であるとはいえない。

(2) 駅前広場の整備改善項目の分析

駅前広場の整備状況に対する満足度を項目ごとに尋ねた。評価項目の詳細とその略記を表-2に示す。

鉄道駅利用者の意識に基づき、駅前広場の整備改善項目を明確にするため、松本ら⁹⁾が提案した手法を適用する。この手法では、「どちらでもない」の評価に対する割合を考慮可能な満足度を横軸に、総合評価への影響度を縦軸にとることにより、評価項目ごとの改善の必要性が明確にできる。

分析結果の一例として、駅前広場に対する総合満足度の評価の高かった駅として枇杷島駅を、評価の低かった駅として蟹江駅を取り上げる。図-3に枇杷島駅における駅前広場の満足度-影響度分布図を、図-4に蟹江駅における駅前広場の満足度-影響度分布図を示す。満足度-影響度分布図において、満足度・影響度の両者が大きい右側上部に位置する項目は、利用者のニーズと整備状況が一致していることを意味する。一方、満足度が低いにも関わらず影響度が大きい左側上部に位置する項目は、利用者のニーズと駅の整備状況が一致しておらず、項目の改善が必要であることを意味する。なお、影響度が0.25以下の場合には、総合満足度との関連が低いと考えられるため、図中では網掛けをしてある。

総合満足度が高かった枇杷島駅では、右側上部に多くの項目が位置するのに対し、総合満足度の評価が低かった蟹江駅では、ほぼすべての項目が左側上部に位置しており、両駅の評価は大きく異なっていることが見て取れる。枇杷島駅の改善項目として、商業施設や情報提供の充実が挙げられ、蟹江駅においては、ほとんどの項目において改善が必要となるが、特に、配置、待合、情報などの改善が求められる。これらの項目を改善することにより、総合満足度を上げることが可能であると考えられる。

5. おわりに

本研究では、JR 東海の駅周辺住民を対象に意識調査を行った。分析結果から、改善が必要となる項

表-1 駅前広場の評価項目と略記

	評価項目	略記
1	バス乗り場の利用のしやすさ	バス
2	タクシー乗り場の利用のしやすさ	タクシー
3	自家用車送迎場所の利用のしやすさ	送迎場
4	駐車場の利用のしやすさ	駐車場
5	自転車置き場の利用のしやすさ	自転車
6	駅前広場の歩行空間の利用のしやすさ	歩行
7	待ちあいや休憩場所の整備状況	休憩
8	植栽やモニュメント等の整備状況	植栽
9	トイレの利用のしやすさ	トイレ
10	交通機関の乗り換え情報のわかりやすさ	乗換
11	市街地の情報の得やすさ	情報
12	駅周辺の商業施設の充実度	商業
13	駅前広場の施設(バス停、タクシー乗降場)配置の適切さ	配置

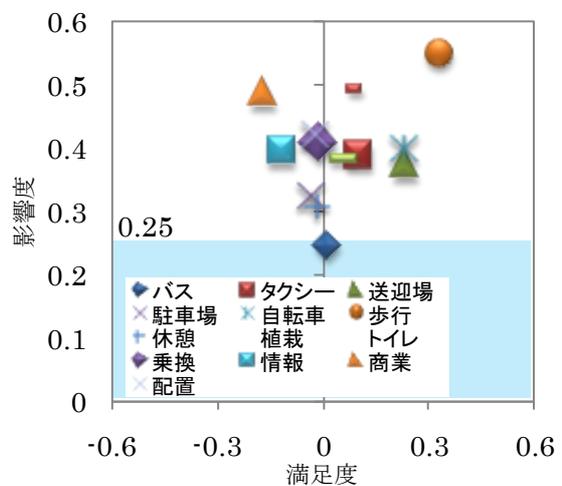


図-3 満足度-影響度分布図 (枇杷島駅)

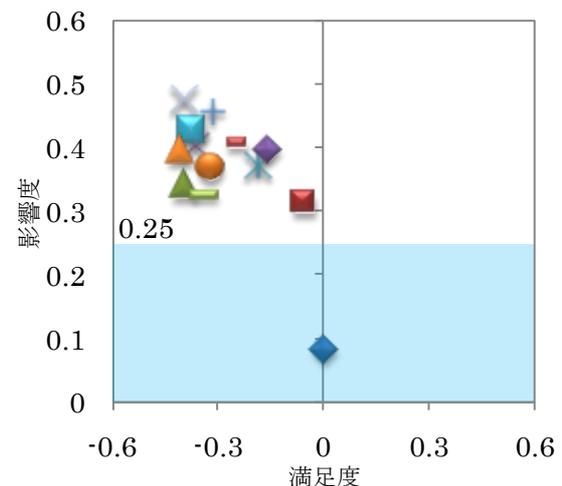


図-4 満足度-影響度分布図 (蟹江駅)

目の明確化が行えた。今後は、駅構内施設に対する改善点の明確化や、利用者属性や駅周辺環境を考慮した改善点の分析を行っていく必要がある。

参考文献

松本幸正, 古井良典, 松井寛(2008), 「意識評価の非対称構造に基づく生活環境要因の分類と評価改善効果の分析」, 土木計画学研究・論文集, Vol.25, no.1, pp267-275